

特集：環境保全に取り組む市民大集合 2011

飯綱庁舎 秋の大にぎわい!!

特集にあたって

「市民大集合」の企画について

10月1日(土)、環境保全研究所飯綱庁舎において「環境保全に取り組む市民大集合 2011」が開催されました。1996年に、自然保護研究所(当時)としてスタートした飯綱庁舎は、今年で開所から丸15年になります。この間、広く多様な風土をもつ信州の自然をまもってゆくうえで、地域に住み、自ら環境保全活動に取り組む市民の方々の力を実感してきました。そこで、「年に一度、環境保全に関心のあるたくさんの方々にお集まりいただき、楽しく情報交換や意見交換ができる場を提供したい」と企画したのがこの催しです。

今回は昨年へ続く第2回目の開催で、メインテーマも、昨年の「足元から考える生物多様性」から「みんなで行こう、自然の調べ方」へと変えてみました。このテーマ設定には、この冬から研究所が始める市民参加による温暖化影響モニタリング調査に広く参加していただきたい、との思いもこめました。



私たちの活動発表の様子

午前の記念講演と午後の発表会

午前中は、今号に巻頭言をいただいた中村俊彦氏に「里山の重要性とその守り方」というテーマでご講演をいただきました。千葉県の里山の現状や保全のための取り組み事例を中心に、現在の里山が抱えている多くの問題や望ましい社会への展望について、文化や教育との関連をも含め、幅広く示唆に富む話題を提供していただきました。

午後は、県内の4つの団体の方から、日頃の活動紹介や研究発表をしていただき、その後に全体の意見交換を行いました。意見交換では、「専門家のリストをつくり、相談しやすい環境をつくっては」とか、「自分たちが調査した結果をどう評価すればよいか」が難しい」などといったご提案やご質問をいただきました。ご講演をいただいた中村氏には「このような



ランチミーティングでの歓談

場の意見をこの場限りのものにしないためにも、県が作成中の生物多様性長野県戦略に、県民(市民)の思いが、わかる形で盛り込まれることが大事」というアドバイスをいただきました。研究所では、今年度から市民参加による温暖化影響モニタリング調査も進めており、今後もさらに多くの方と様々な形で連携を強めることができればと思っています。

そしてこれからも

お昼の時間には、18の活動団体による思い思いの展示や活動紹介を見ていただくとともに、研究所のスタッフが調査の格好をして、それぞれの分野の調査道具を解説するコーナーを設けました。当日は、時期的に秋のイベントや活動が多く、地元は台風あけの稲刈りの頃でもありましたが、午前午後を通して県内各地から110名もの多くの方々にご参加いただきました。参加された皆様に、心からお礼を申し上げます。

展示発表団体リスト

当日、活動の展示発表をされたの方々をご紹介します。ありがとうございました。

◆みどりの市民 ◆ながの環境パートナーシップ会議
◆野尻湖水草復元研究会 ◆東信自然史研究会 ◆小諸
ミズオオバコ保全会議 ◆塩尻キリギリスの会 ◆森づくり
人づくり22 ◆農楽里ファーム ◆環境ネットワーク・茅野
◆NPO法人 生物多様性研究所 あーすわーむ ◆NPO法人ラポーザ
◆身近な水環境全国一斉調査 長野県ネットワーク ◆しんリンク(信大マイスター)
◆軽井沢サクラソウ会議 ◆白地図をめろう会 ◆染屋の森の会
◆須坂水の会 ◆長野県環境保全研究所友の会(以上18団体、順不同)

(企画担当 富樫 均・浜田 崇・小澤ゆきえ)